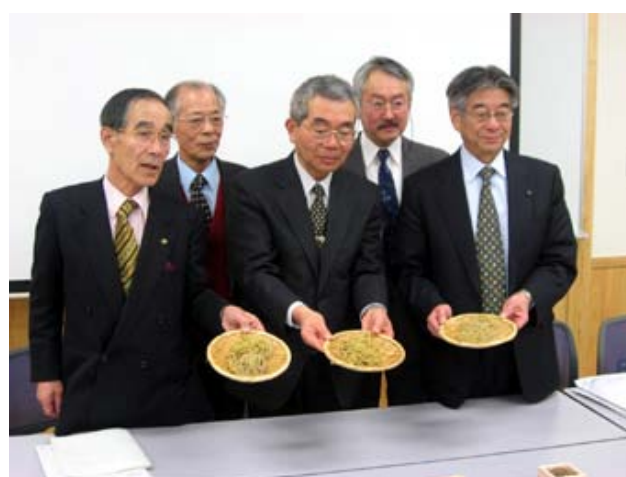


信州大学農学部では、4月3日（木）に食と緑の資料館「ゆりの木」において、農学部長、タカノ（株）社長、伊那市長の出席のもと、食料生産科学科 井上直人教授がタカノ（株）との産学連携により栄養価の高いダットンソバの開発を行い、平成20年2月22日に3品種の品種登録が行われたことと、この品種を伊那市が栽培支援を行う産学官連携についての会見を行いました。

品種登録した品種名は、**気のカ**（キノチカラ：第16138号）、**気の宝**（キノタカラ：第16139号）、**気の豊**（キノユタカ：第16140号）の3種です。

これらの品種は日本初の中生種であり、収量性が高く（普通ソバの約2倍）でルチンは約200倍（1900mg/100g）と高く、健康増進のための機能性食材として期待されます。

今後は、原種生産が信州大学、栽培は伊那市内の栽培者、加工・販売はタカノが担当する事業のシステム化を図ってまいります。加工・販売先が確立できたことにより伊那地方の生産振興に期待がかかります。井上教授は、「伊那地方のブランド化・特産化を進めるとともに、今後ダットンソバを用いた健康食品の開発を行いたい。」と話しました。



写真：（左）説明する井上教授、タカノ（株）社長、唐澤農学部長、小坂伊那市長、清水産学官コーディネータ（右から）  
（右）品種登録したダットンソバを持つ皆さん  
タカノ（株）社長、唐澤農学部長、小坂伊那市長、  
（後列）井上教授、清水産学官コーディネータ（右から）